

博物館実習1
和田菜穂子先生

チーム：**5 ?**

メンバー

相沢 里奈

鈴木 碧

竹越 友美

日塔 真由子

三上 優

2010年7月26日

企画書

チーム：5? (ファイブクエスチョン)

ハテナ

? 展

～答えなんてない！真実は一つ、じゃない～

すみませんが、目をつぶってみてください。

あなたの目の前にはミロのヴィーナスがあります。

彼女には腕があります。さて、どんなポーズをとっていますか？

今回の企画展ではみなさんに想像していただきます。

さあ、じっくり見て下さい。

あなたのヴィーナスはどんなポーズをとっているのでしょうか。

時間はたっぷり用意されています。是非この機会に考えてみませんか。

答えは一つではありません。

展覧会概要

?展のテーマは「謎」です。ミロのヴィーナスの腕、ニケの顔、モナリザの微笑みなど、欠損していて元の状態が分からぬるものや、詳しく解明されておらず憶測が憶測を呼んでいるような芸術作品を集めました。みなさんには想像力を存分に使っていただき、ヴィーナスのポーズはどんなものだったのか、ニケはどんな表情をしていたのか考えていただきます。それらには、これが正しいというような答えなどありません。あなたなりのヴィーナス、あなたなりのニケ、あなたなりの何かを私たちは望んでいます。

作品

ミロのヴィーナス (アフロディーテ)

サモトラケのニケ

モネ『睡蓮 朝、水の習作』

レオナルド・ダ・ヴィンチ『モナ・リザ』

レオナルド・ダ・ヴィンチ『最後の晩餐』

会期：2011年4月23日（土）～10月23日（水）

会場：東北芸術工科大学 7階ギャラリー

時間：10:00～21:00/10:00～18:00（土）

主催：チーム 5?

共催：東北芸術工科大学

後援：ジュネーブ銀行

協力：ルーヴル美術館、オランジュリー美術館

入場料：大人 1000 円、大学・高校生 800 円、小人 500 円

問い合わせ：東北芸術工科大学 ☎990-9530 山形市上桜田 3-4-5

企画・お問い合わせ：美術館大学センター www.tuad.ac.jp/museum/

Tel:023-627-2019 E-mail:museum@aga.tuad.ac.jp

ワークショップ「では、実際に考えてみましょうか」

日 nichi : 5月 8 日 (日)、7月 9 日 (土)、9月 22 日 (木)

時間 : 13:00~16:00 申込・予約 : 不要 定員人数 : 15 人 費用 : 無料

内容 : 展覧会担当学芸員と会場を歩きながら考える企画です。パンフレットに書き込みながら作品を見ていきます。

ギャラリートーク (展覧会担当学芸員)

日時 : 6月 18 日 (土) 16:00~17:30 申込・不要 会場 : 東北芸術工科大学

ごあいさつ

このたびは当展覧会に足をお運びいただき心から御礼申し上げます。

今回は、みなさんの想像力を十分に發揮していただき、深く考えて
いただく内容となっております。

さて、ミロのヴィーナスの腕、サモトラケのニケの顔、モネの睡
蓮、最後の晩餐の謎、モナリザの微笑みは皆さんご存知かと思いま
す。そしてこれらの作品は、後世に多くの謎を残しています。

みなさんに想像していただくのはこの5点。一度は考えたことがあ
るのでないでしょうか。答えは用意されていません。ですがそれ
故に生まれるであろうあなた自身の答えを持ってお帰りいただけれ
ば幸いです。

それでは、めくるめく謎だらけの展覧会へどうぞお進みください。

主催 チーム5？(ファイブクエスチョン)

？展作品解説文～ミロのヴィーナス～

2007.10.21 4年 相沢里奈

アプロディーテ、通称「ミロのヴィーナス」

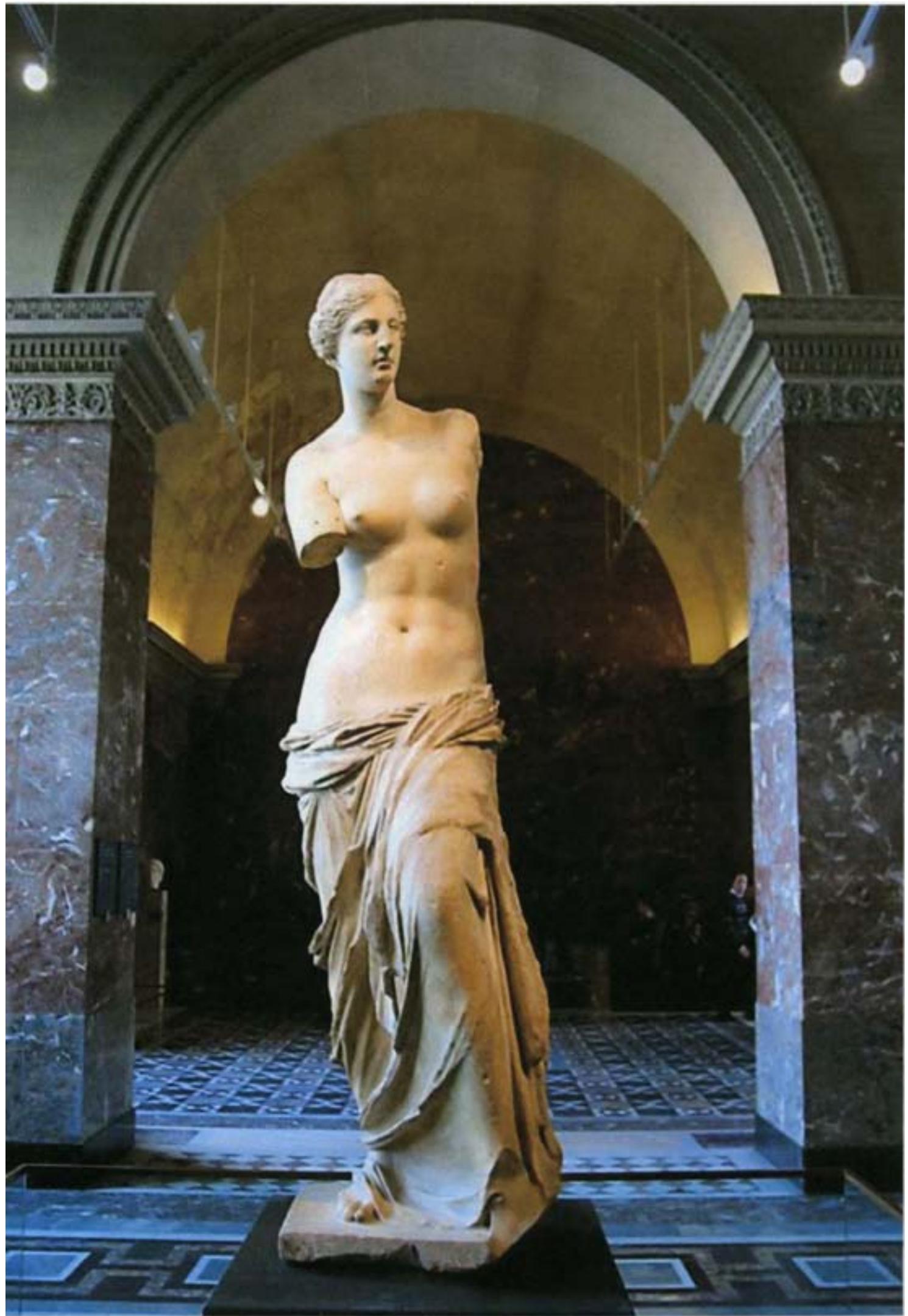
前2世紀末 ギリシア、キクラデス諸島のメロス島（現代ギリシア語でミロ）
パロス大理石、寛衣の位置でつながれた2つの大理石のブロックで構成された丸彫
左腕と左足は別に加工 高さ2.02m リヴィエール侯爵よりルイ18世に贈与、1821
年取得

N° d'entrée LL 299 (n° usuel Ma 399) 古代ギリシア・エトルリア・ローマ美術

1820年のメロス島での発見よりこの神像は、その優美さとその解釈を巡るなどにより人々を魅了している。この作品は、頻繁に半裸で表現されているアプロディーテ、もしくはミロで崇拜されていた海の女神アンフィトリテを表現したのであろうか。

主に2つの大理石のブロックで構成されたこの彫像は、別に加工された複数の部分によりできており、はめ込み部品の技術を使い、上半身、両脚、左腕、左足はなどは、縦はめ込みにより結合されている。この加工方法は、ギリシア世界のなか、とくに前100年頃にこの作品が制作されたキクラデス諸島にてとても普及していた。この彫刻の両腕は発見される事はなかった。女神は腕輪、イヤリング、髪をまとめる帯などの鉄製の装飾品により飾られていたが、現在ではそのための固定の穴のみが残っている。今日失われた多彩装飾は、この大理石像を引き立たせていたと思われる。

この女神はなぞに包まれており、その仕草もまた解読不可能である。不足する部位と象徴物の欠落は、この彫像の復元と識別を困難にする。そしてその仕草は、様々な憶測を呼び起した。



サモトラケのニケ

仏語: Victoire de Samothrace

英語: Winged Victory

希語: Νίκη της Σαμοθράκης

ギリシャ神話に登場する勝利の女神。ローマ神話ではヴィクトリアとも呼ばれる。

ヘレニズム時代の彫刻の代表的な作品で、高さ 328cm の大理石製。

1863 年にギリシャのサモトラケ島(現在、サモトラキ島)でフランス領事シャルル・シャンポワゾにより胴体部分が発掘され、それに續いて断片と化した翼が見つかり、復元された像は 1884 年からルーヴル美術館の『ダリュの階段踊り場』に展示されている。

1950 年に右手が発見されたが、腕の形や全体像が分からぬいため復元されないままルーヴル美術館に展示されている。

この建造物は、難破から船乗りたちを守ること、または戦士たちに勝利を捧げることを祈願するための豊饒の巨人、カベイロイの神々に捧げられているサモトラキの神殿に張り出していた船の船首に立っていた。ミオンニソスの海戦、またはシリアのアンティオコス 3 世の船団に対する前 190 年頃のシデの海戦の勝利の際に、ロードス島民が奉納品として献上したものと思われる。

優美でダイナミックな姿や翼を広げた女性という特徴的なモチーフなどが印象的である。このイメージが天使のモデルになったと言われ、ニケは各地にレプリカが作られるほど人々に親しまれている。



『睡蓮 朝 水の習作』

芸術学部美術科工芸コース

2007-15-047 竹越友美

1914～1918年頃

197×1271 cm

この作品は、印象派を代表する画家クロード・モネの作品である。対象となるモチーフの構図や配置はほとんど変えぬまま、季節・時間・天候による日の光の違いを描いた連作を数多く制作した。

その中でもっとも作品数が多く、モネの代名詞ともなっているのが1890年代終わりから描きはじめた『睡蓮』の連作である。本作品は当時新規開業するパリのオランジュリー美術館のために制作した8枚組みの睡蓮（高さ2メートル、幅の総計91メートル）のうちの1枚である。

1911年、娘シュザンヌの早逝を悲しむ妻アリスが亡くなり、1914年、長男のジャンも続いて世を去った。さらにモネは白内障で視力の衰えに苦しんだ。苦境のモネを励ましオランジュリー美術館を飾る睡蓮の連作に向かわせたのは、友人のジョルジュ・クレマンソーである。庭の隅にガラス張りの大きなアトリエを建て、自由に移動できるように車をつけたイーゼルを立てて、朝から夕方まで、時とともに移り変わる池の様子、水面の反映と鮮やかな花の美しさを捉えようと試みたのである。画面のすべてが水面でおおわれ、水面に浮かぶ睡蓮、水中の茎や水草、水面に映る空や樹木の反映が渾然一帯となって描かれている。晩年は失明寸前の状態にあったこともあり、画面は限りなく抽象に近付いている。モネは死の直前までこの大作に筆を入れ続けた。

この作品は、画面の上下が曖昧であり、どちら側からも見ることができます。謎のある絵画とされている。



作品解説

最後の晩餐 レオナルド・ダ・ヴィンチ

歴史遺産学科 2007-10-013
日塔真由子

1495-1497年、460×880cm、油彩・テンペラ
サンタ・マリア・デレ・グラツィエ聖堂修道院食堂（ミラノ）

解説

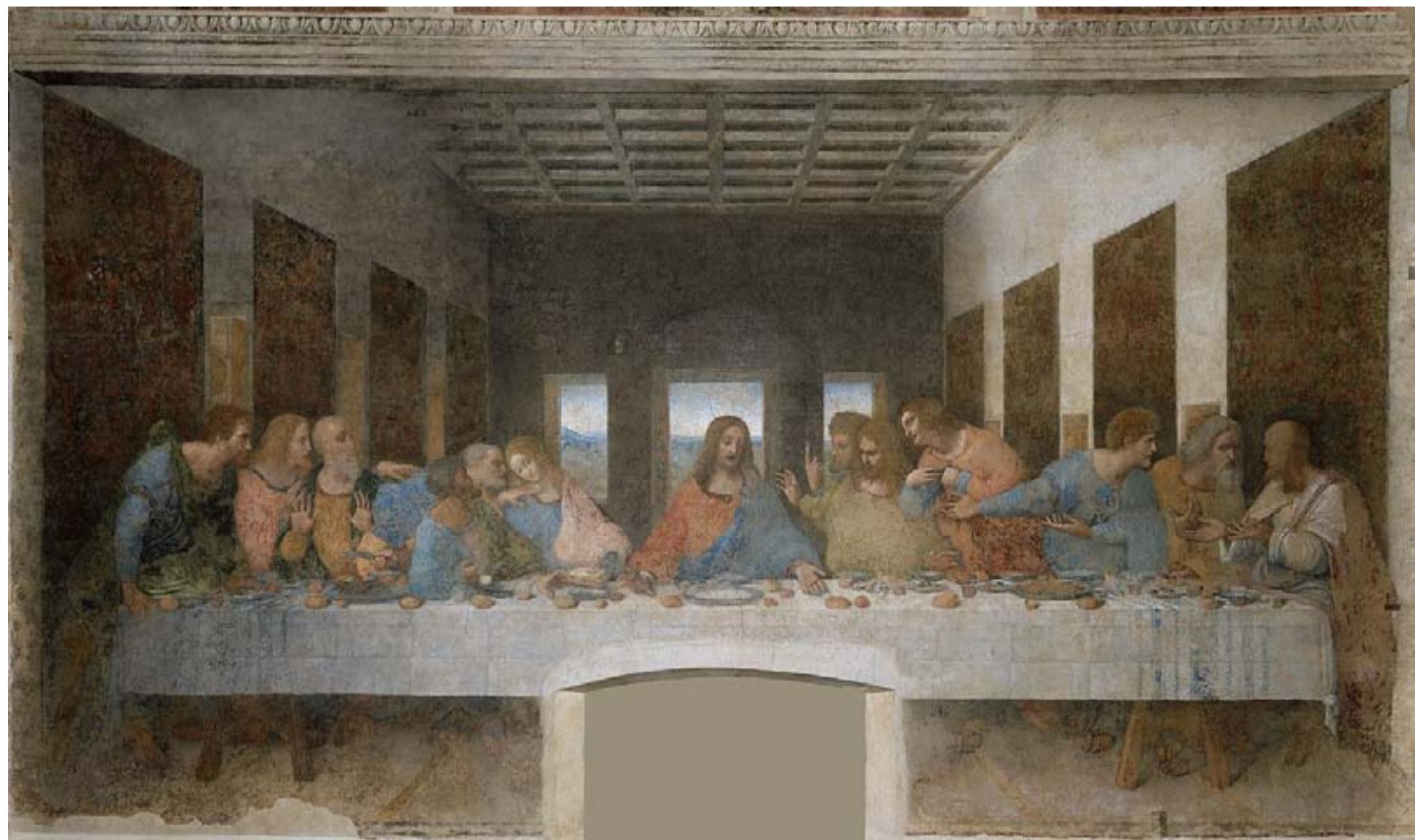
この作品は、ダ・ヴィンチが生涯に手がけた壁画のうち、現存する最も代表的な作品であり、当時のミラノ公ルドヴィーコ・スフォルツァ（ルドヴィコ・イル・モーロ）の依頼によりミラノのサンタ・マリア・デレ・グラツィエ聖堂修道院食堂の装飾画として制作された。本作は、キリスト教美術において比較的古くから用いられ、修道院の食堂を装飾する絵画の主題として典型的のひとつでもある「最後の晩餐」を描いたものであるが、単純に通常示される教義「聖体拝受（主によるパンと酒杯の拝受）」を描いたものではなく、イエスが十二人の使徒に対し『この中に私を裏切るものがいる』と裏切り者を指摘する、劇的な要素での登場人物の複雑な心理描写に重点が置かれている。

本作は技巧的にも壁画で通常用いられるフレスコは使用されず、油彩とテンペラによって描かれているため完成後まもなく遜色が始まり、それに加え食堂が馬小屋として使用されたことで湿気に晒されたことや、第二次大戦での建物全壊（奇跡的に壁画は無傷）などが重なったことによって壁画として保存状態が悪かった期間が長かったため、この傑作を原型のまま鑑賞することはできない。

参考文献

サルヴァスタイル美術館 HP

http://www.salvastyle.com/menu_renaissance/davinci_cena.html



芸術学部歴史遺産学科
4年 200710029
三上 優

《モナ・リザ》

作 者 名：レオナルド・ダ・ヴィンチ

分 野：油彩

材 質：ポプラ材

寸 法：77cm×53cm

制 作 年：1503－1506年

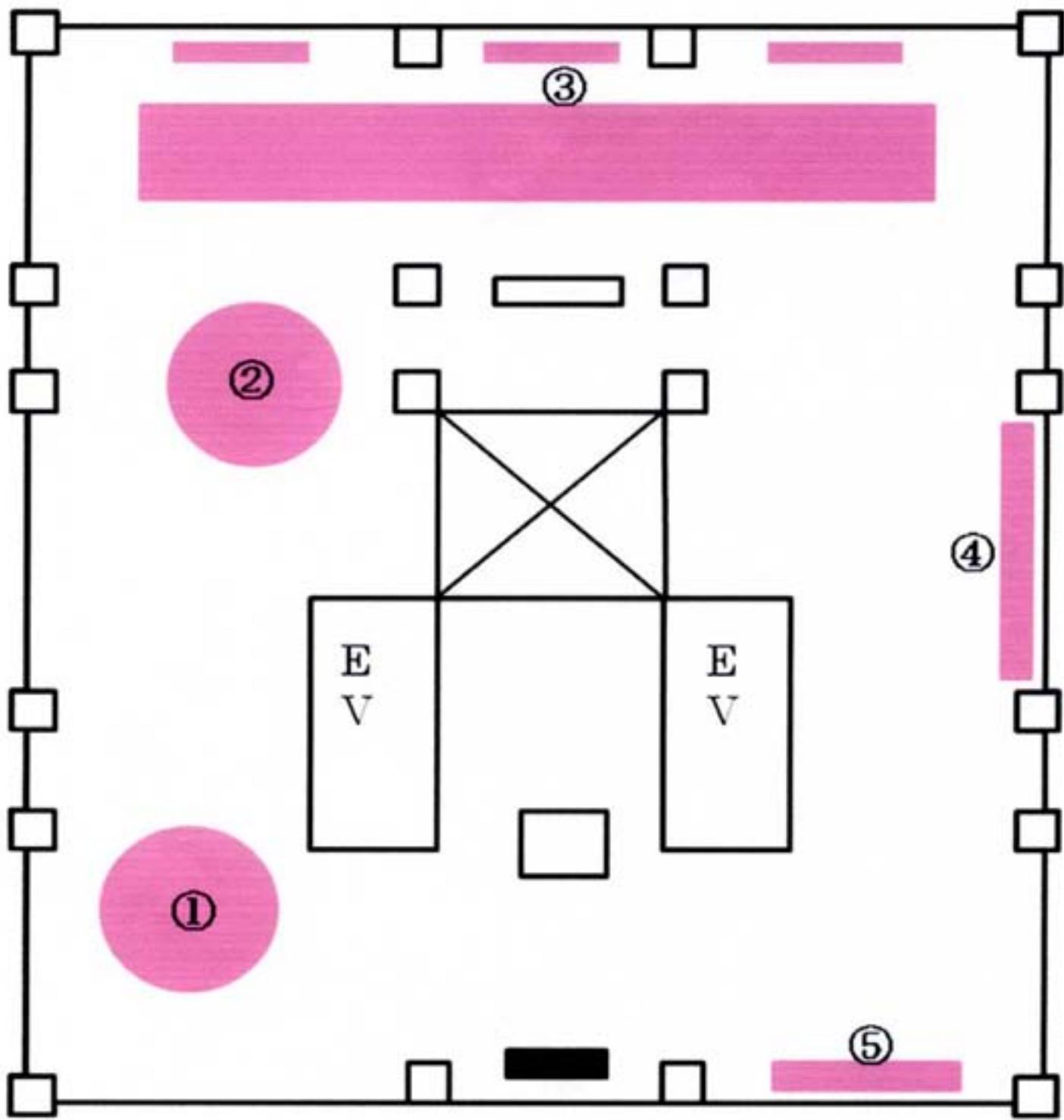
収蔵場所：パリ ルーヴル美術館

レオナルド・ダ・ヴィンチの手によって描かれたこの肖像画はフランチェスコ・デル・ジョコンドの妻、エリザベッタ・ゲラルディーニだとされており、深緑の衣装を着た一人の女性が僅かに微笑んだ半身の肖像が描かれている。ルネサンス芸術の象徴ともいえる《モナ・リザ》は1911年に盗難にあい、2年後の1913年にフィレンツェの画家に売られようとしていたところを発見され、イタリアで展示された後フランスへ返還されている。

人物をバストアップのアングルで捉え、遠景を背景に配し、頭を頂点にしてピラミッド状に人物を置いた《モナ・リザ》の構図はその後の肖像画に大きな影響を与えた。肖像画として初めて空想の空間の前に人物を描いたものの一つでもある。顔、首、胸、腕は柔らかな光が当たっているように描かれ、この光彩が隠れた球面と円形の構図を明らかにし、画面を生きたものとしている。全体を通してレオナルドが完成したスマートで描かれており、背景には空気遠近法が効果的に用いられている。これによってレオナルドは、モデルと風景を統合的に描くことに成功している。

「モナリザ・スマイル」と呼ばれるその独特的の笑いは古くから多くの研究者を虜にしてきた。純粹に魅力的な者を描いたと言う者も居れば、ひねた笑いか、悲しみをたたえた笑いであるとも言う者も居る。ジークムント・フロイトは、レオナルドが母親に抱いていた性的な魅力であるという解釈を残している。しかし、レオナルドの時代にはこのような不思議な笑みも肖像画によくみられる特徴の1つであった。表情が左右で微妙に異なっている事もよく指摘される。彼女が浮かべる「スマイル」は何を表しているのだろうか。

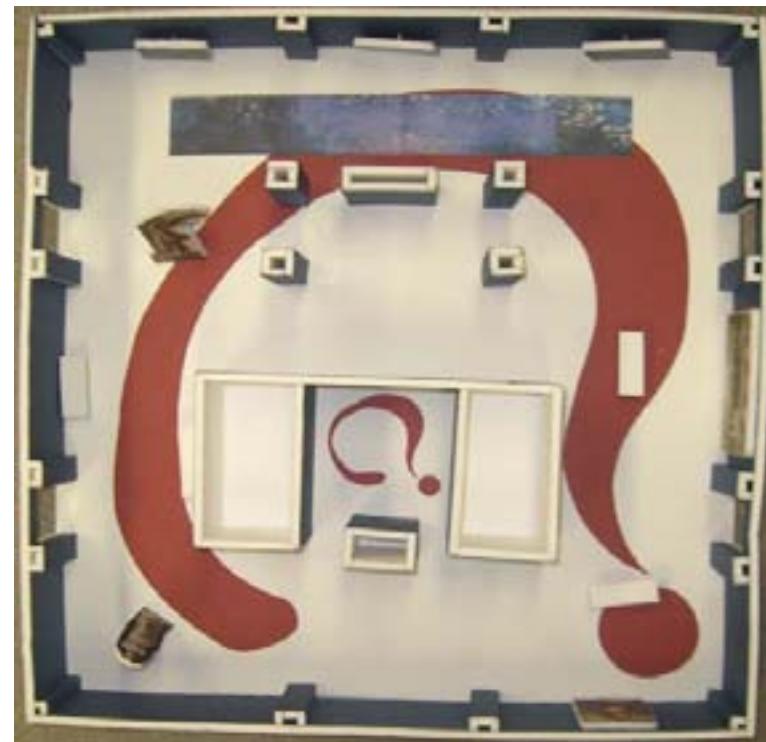




展示レイアウト

- ① ミロのヴィーナス
- ② サモトラケのニケ
- ③ 睡蓮 朝 水の習作
- ④ 最後 の晩餐
- ⑤ モナ・リザ

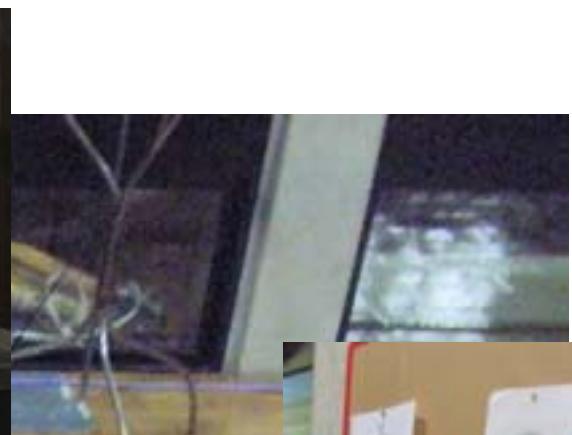
展示形式(模型)



全体図

(真上から)





企画展示
1Fにて



ワークショップ

「では、実際に考えてみましょうか」

展示作品の解説とともに謎を問いかけると言う内容のパンフレットを作り、そのパンフレットを使用しながら楽しく作品について考えてもらう。

例…

○ミロのヴィーナス（アフロディーテ）

→腕はどうなっていたのか？装飾品は？

○レオナルド・ダ・ヴィンチ『モナ・リザ』

→眉毛を描くならどう描く？それはどんな表情の眉毛になるだろう？

『モナ・リザ』って本当は男性？それとも女性？

パンフレットに直接書き込める形式にし、自分のイメージで描いてもらう。

その他に、パンフレットのワークショップで使用する部分を印刷した紙を用意し、思いつく限り描いてもらえるようにする。

描いてもらったものをお互いに交換したり壁などに張り出したりして、皆に見てもらい、このような考え方もあるのだと感じてもらえるようにする。

●ワークショップに参加した方全員に、チーム5？特製の団扇をプレゼント。

●パンフレット以外で描いてもらった紙はお持ち帰り自由。

*ワークショップで使用した紙は、それ専用の展示スペースを設け展示を行うか、ファイルに保存する予定。

*他人の描いた答えを自分のものにして欲しくはないので、謎と一緒に答えは展示しない。

●ワークショップで使用する紙は、展示している謎の近くにも置いておく。描くことも出来るように鉛筆も添えておく。

ワークショップ用 A4形式



ヴィーナスの腕を描いてください。
ヴィーナスの装飾をしてみてください。

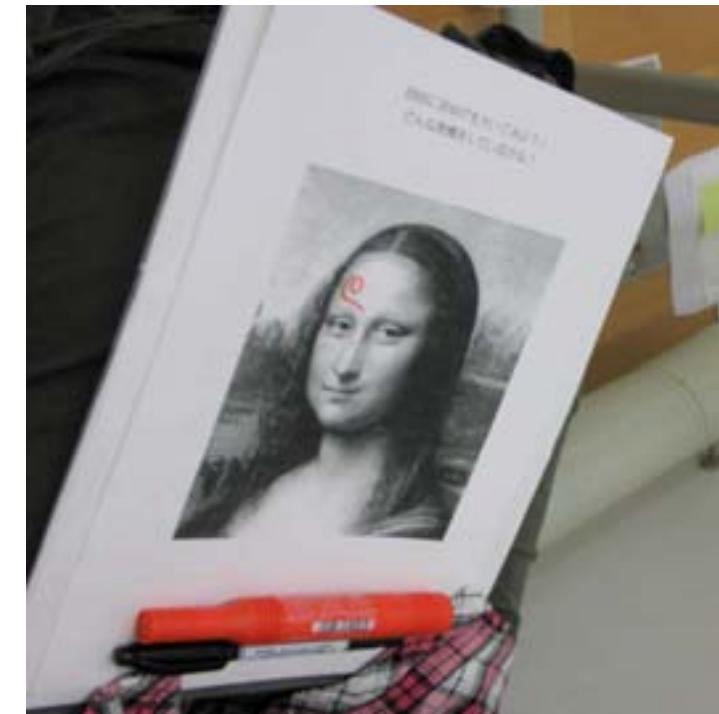
自由にまゆげをかいてみよう！

どんな表情をしているかな？



ワークショップの風景

7月12日



あなたの

答えを教えて下さい。

企画展示 ワークショップ

10月5日～10月15日



手作り団扇



パンフレット



表紙・裏表紙

あいさつ

このたびは当展覧会に足をお運びいただき心から御礼申し上げます。今回は、みなさんの想像力を十分に発揮していただき、深く考えていただく内容となっております。

さて、ミロのヴィーナスの腕、サモトラケのニケの顔、モネの睡蓮、最後の晩餐の謎、モナリザの微笑みは皆さんご存知かと思います。そしてこれらの作品は、後世に多くの謎を残しています。みなさんに想像していただくのはこの5点。一度は考えたことがあるのではないかでしょうか。答えは用意されていません。ですがそれ故に生まれるであろうあなた自身の答えを持ってお帰りいただければ幸いです。

それでは、めくるめく謎だらけの展覧会へどうぞお進みください。

目次

あいさつ	p. 1
ミロのヴィーナス	p. 2-3
サモトラケのニケ	p. 4-5
睡蓮 朝 水の習作	p. 6-7
最後の晩餐	p. 8-9
モナ・リザ	p. 10-11

ミロのヴィーナス [正式名称：アフロディテ]

アンティオキアのアレクサンドロ

高さ 2.02m パロス大理石 紀元前 130 年頃 パリ ルーブル博物館

1820 年 4 月 8 日に小作農であったヨルゴスによってエーゲ海ミロス島で発見され、その時にはすでに両腕がなかったとされるアフロディテ、通称ミロのヴィーナスは、さまざまな芸術家や科学者が欠けた部分を補った姿を復元しようとしていますが未だに確固たる答えは発見されていません。

さて、本来の姿にも興味は尽きませんが、今回はこれでいいのです。
私たちはあくまで復元しようというのではなく、自由な発想でもってヴィーナスの腕を想像してみようという提案なのです。

さあ、考えてみましょうか。

Q1. あなたのヴィーナスはどんな腕で、どんなポーズをとっていますか？

ところでもうひとつ。彼女の右腕を見て下さい。穴があいているのが見えますか？実は彼女には腕輪、イヤリング、髪をまとめる帯などの装飾品により飾られていた形跡があるのです。そのひとつが右腕の穴、固定穴です。それではもうひとつ考えてみましょうか。

Q2. そのヴィーナスを装飾してください。

右のページにヴィーナスが来ています、さあ、どうぞご自由に。



ヴィーナスの腕を描いてください。
ヴィーナスの装飾をしてみてください。



サモトラケのニケ

制 作者不明

高さ 3.28m

大理石

制作年代不明

パリ ルーヴル美術館

ギリシャ神話における勝利の女神。

サモトラケ島(現在はサモトラキ島)の神殿に、海戦勝利を記念してロードス島民から奉納品として献上された。神殿の張り出していた船の船首に立ち、難破から船乗りたちを守ること、または戦士たちに勝利を捧げることを祈願していた。

1863年に胴体部が発見され、翼の断片が次々と見つかり、復元が行われたが、頭部と両腕のない状態だった。

その後 1950 年になり、右手が発見されたが、腕の全体像が分からぬため復元されず、別展示されている。

ここで、謎掛けを 1 つ。

右の図は、正面から見たニケの像です。

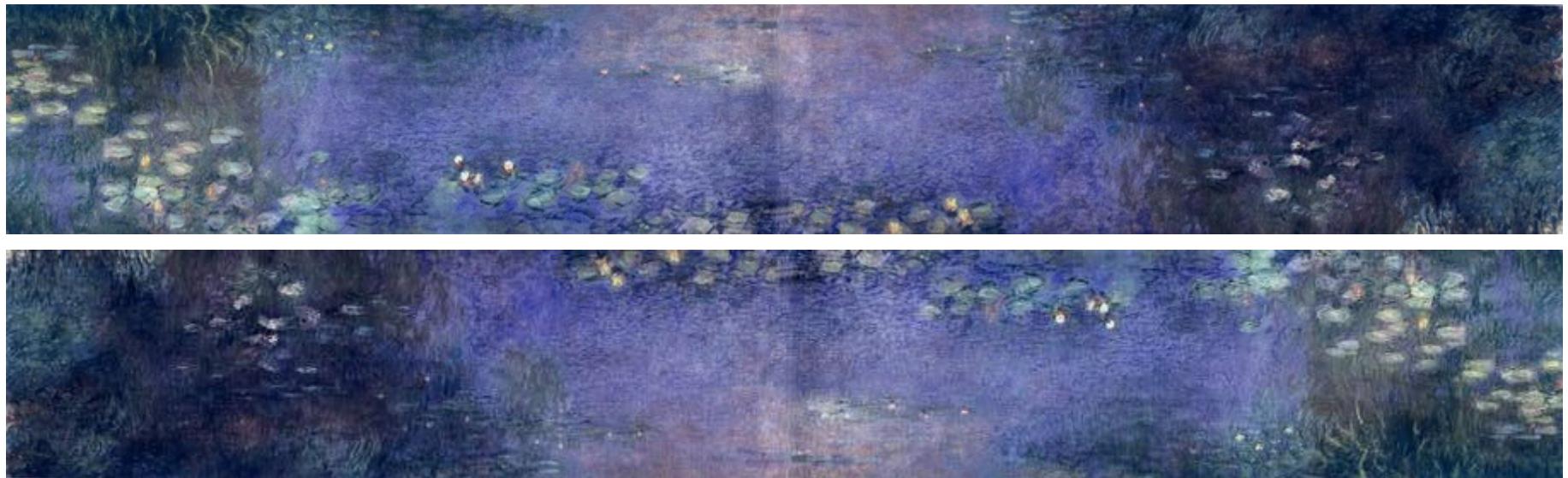
頭部が発見されていないので、誰もニケがどのような表情をしていたのか、どのような髪型をしていたのか知ることは出来ません。

知ることが出来なくとも、想像することは出来ますよね。

想像してみて下さい。貴方なら、ニケがどのような表情や髪型をしていましたと思いませんか？

下の図に、顔や腕などを自由に描いてあげて下さい。





睡蓮 朝 水の習作

クロード・モネ

197 cm × 1271 cm

油彩

1914年～1918年頃

パリ オランジュリー美術館

クロード・モネは対象となるモチーフの構図や配置はほとんど変えぬまま、季節・時間・天候による日の光の違いを描いた連作を数多く制作しました。その中で最も作品が多く、モネの代名詞ともなっているのが1890年代終わりから描き始めた『睡蓮』の連作です。本作品は、パリのオランジュリー美術館のために制作した8枚組（高さ2m、幅の総計91m）のうちの1枚です。

この作品は、妻と息子が相次いでこの世を去り、白内障による視力の衰えにモネが苦しんでいた頃に描かれました。苦境のモネを励まし、睡

蓮の連に向かわせたのは、友人のジョルジュ・クレマンソーです。クレマンソーは、モネの作品を国家に寄贈することを勧めました。

モネは庭の隅にガラス張りの大きなアトリエを建て、自由に移動できるよう車輪をつけたイーゼルをたててこの作品を描きました。

水面に浮かぶ睡蓮、水中の茎、水草、水面に映る空や樹木の反映が全て、渾然一帯となって描かれています。

さて、実はこの作品、どちら側から鑑賞するのか、正確なことがわかっていないません。

どちらが上で、どちらが下か？

それとも上下という概念すらないのか？

この絵画が持つ謎について、あなたはどのように考えますか？

最後の晩餐

レオナルド・ダ・ヴィンチ

460×880cm 油彩・テンペラ 1495年～1497年

この絵は、ミラノにあるサンタ・マリア・デレ・グラツィエ聖堂修道院の食堂に描かれている壁画です。真ん中にいるイエスが周りの十二人の使徒に、「この中に私を裏切る者がいる」と、裏切り者を指摘する場面を描いたものです。

壁画に散りばめられた謎

《わざと剥がれやすい技法？》

本来壁画ではフレスコという技法が使われるのですが、本作では壁画に適さない油彩とテンペラを用いています。ダ・ヴィンチはわざとこの技法を使用したと言われていますが、詳しくは解明されていません。

《何料理を食べている？》

テーブルの上に並べられている料理は聖書においては羊肉料理を食べているはずなのに、近年の修復作業で魚料理を食べていることが分かりました。

《この人は誰？》



イエスの隣にいるこの人物。本来十二使徒は全員男のはずなのに、中性的な顔立ちで描かれています。女性なのか男性なのか。中には手の描き方が他の使徒と同じように見えるということから男性ではないかという意見も

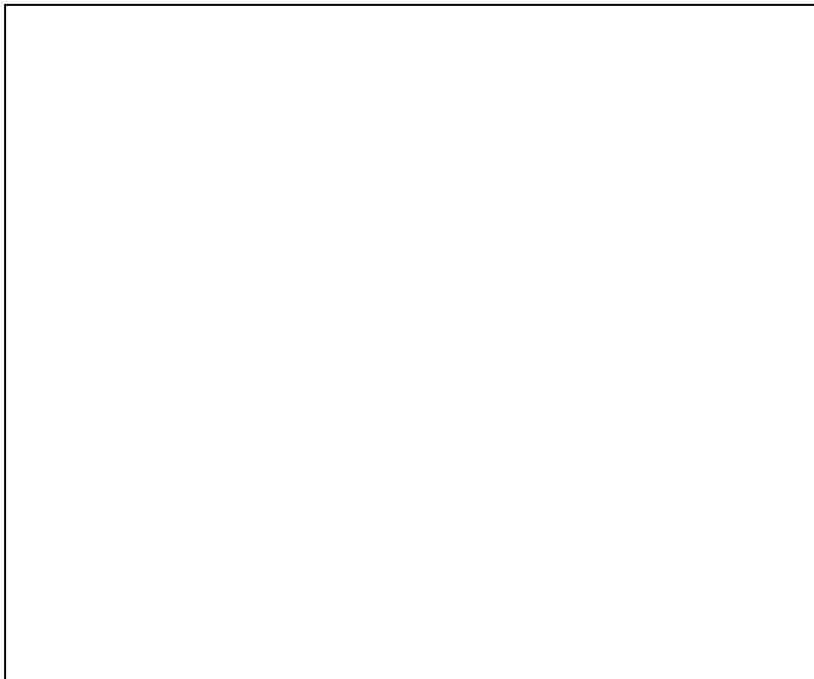
あります。

聖書では、ここにはヨハネという十二使徒の1人がいるべき場所なのですが、ダ・ヴィンチはわざと中性的な顔立ちで描いてマグダラのマリアの存在を示したかったのではないかという説があります。

《マグダラのマリアとは?》

イエスの妻、または親密な関係の女性で、十二使徒と共に旅をしていました。イエスが処刑された時もそばにいて、復活したイエスが最初に姿を現したのも彼女の前でした。このように重要な場面には必ず登場しているといえます。一説ではダ・ヴィンチは彼女を描きたかったがために、ヨハネをわざと中性的な外見で描いたのではないかと言われています。

この作品には他にもたくさん謎があります。あなたはこれらの謎についてどのように思いましたか？あなたの考えをご自由にどうぞ。





モナ・リザ

レオナルド・ダ・ヴィンチ

77cm × 53cm

油彩

1503年～1506年

パリ ルーヴル美術館

レオナルド・ダ・ヴィンチの手によって描かれたこの肖像画は、フィレンツェの商人フランチェスコ・デル・ジョコンドの妻、エリザベッタ・ゲラルディニだとされており、ルネサンス芸術の象徴ともいえます。この肖像画に対して、ある人は純粋に魅力的な者を描いたと言い、ある人はひねた笑いか、悲しみをたたえた笑いであるとも言います。『坊ちゃん』や『こころ』の著者、夏目漱石も、自身の著書である『永日小品』に所収されている短編『モナリサ』において、彼女を「気味の悪い顔」、「縁起の悪い画」と書いています。モナ・リザをどう見るのかは十人十色なのです。

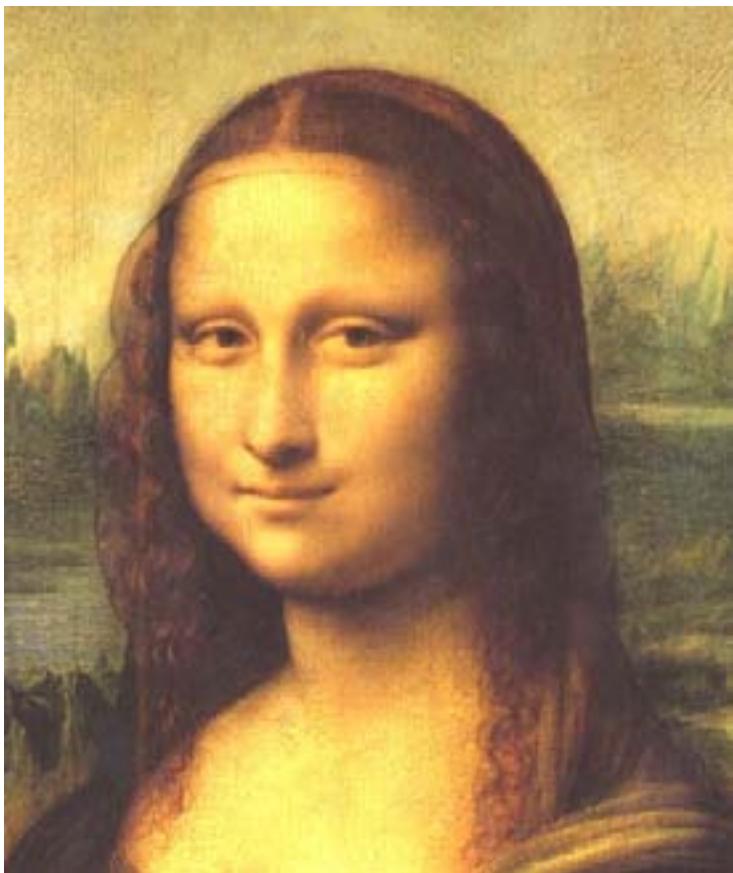
また、モナ・リザには眉毛がなく、過去の修復の際に拭き取られてしまったといわれています。

あなたが見る彼女はどんな表情をしていますか？

そしてその表情を浮かべる彼女の眉毛はどんな形をしていますか？

自由にまゆげをかいてみよう！

どんな表情をしているかな？



?

展 一答えなんてない！真実は一つ、じゃない！—

主 催：5?（ファイブクエスチョンズ）

共 催：東北芸術工科大学

後 援：ジュネーブ銀行

印刷所：彩画堂